

# LIBRARY

鳥取大学附属図書館報

132

2019.Jan.



## INDEX

- 01 巻頭言  
本を手元に 細井由彦
- 03 私の選んだこの一冊  
『ダークレディと呼ばれて』 渋谷泉  
『平家物語』 久保堅一
- 07 20回目の図書館セミナーを開催して  
中根裕信
- 09 学生協働交流シンポジウム報告
- 11 ラーニングコモンズ改修
- 12 古本募金開始
- 13 トピックス

## 本を手元に



細井 由彦（ほそい よしひこ）  
理事（企画・評価担当, 広報担当）、副学長

読書ゼミナール（現教養ゼミナール）は、ドイツ語の教授だった武田修志先生が「学生に本を読ませる授業をつくりたい」と言われ、それならこのようなものがありますよと、当時、月刊誌「文藝春秋」に掲載されていたお茶の水女子大学の藤原正彦教授による読書ゼミの記事を紹介したところ、「よし！『鳥大読書ゼミナール』でいこう！」ということになり、先生が学内に呼びかけられ2009年に20名程度の教員の参加によりスタートした。

私もうまく指導できるか自信は持てなかったが、受講生に自分で本を読んで意見を発表し、読書の楽しさや大切さを感じてもらうことを目標にして授業を始めた。以来今年で10年目になる。

受講生は毎週指定された本を読んで授業日の前までに感想文を提出、それをもとに授業ではディスカッションをする。どのように感じるかは本人の自由で正解があるわけではない。それぞれが感想を述べ、お互いに自由に意見を交換できるように導くのが私の仕事。期末の感想では、「同じ本を読んでも他人とは感じ方の違いがあるのが面白かった」、「少人数でお互

いに自由に意見を言い合えるのが楽しい」、「これまで興味なかった作家を知ることができた」など、当初の目標は概ね達成されていると思っている。読書やディスカッションを通して得たこと、考えたことが何か将来の力になればと思う。

先の藤原正彦教授（現名誉教授）は「読書は教養の土台であり、教養は大局観の土台である」と言っている。どんな事柄でも論理的に正しい議論はゴロゴロあるが、どの出発点を選ぶかの選択は教養やそれに裏打ちされた情緒でなされる。（藤原正彦「祖国とは国語」）将棋の羽生善治永世七冠は「大局観」という本の中で、「大局観とは具体的な手順を考えるのではなく、大局に立って今の状況を判断すること。大局観で無駄な読みを省略できる。」と述べている。若い人たちがこれからの人生の中で、論理的に物事を詰める前の方向の選択や、思考を尽くした最後の詰め切れないところの決断を求められる局面に遭遇するだろう。そんなときにそれまでに積み上げた人間性、教養がものをいう。大学で身につける教養とは、「言っていることは整合的だけど何か胡散臭いもの」と、言っているこ



とはまるで分からないけど何かすごそうなもの、その二つをちゃんと見分ける能力」(鷺田清一・内田樹「大人のいない国」). 情報の善し悪しはたいがい直感的に分かる. その全体の感じ, 「たたずまい」で分かるのである. (齊藤兆史「教養の力 東大駒場で学ぶこと」).

読書ゼミナールの受講を機にさらに読書を深めて欲しいと思うし, その他の学生さんもぜひ本を読むようにして欲しい. 無理をして量をこなす必要はなく, 自分のペースで読めばよい. スマートフォンを見ている時間を少しだけ読書にまわせばよいのだ. いつも切らさずに, 読みかけている本が手元にあるようにすることを目標にすればよいのではないだろうか. 1冊の本を読み終えるまでは他のものには手を出さないということではなく, 途中で興味ที่ わく本があればそちらも読み始め

ればよい. 2冊, 3冊と並行して, そのときの気分で読みたいものを読みながら進んでいけばよい.

すぐには目に見える効果は現れないが, 正しい食事や運動の習慣がいつの間にか健康な身体をつくるが手を抜いていると思わぬ弊害が出ることもある. 読書も長年の積み重ねが心の栄養となり精神の成長につながると思う. 細かい内容を忘れてしまってもよい. 太宰治「正義と微笑」の中に, 「学問なんて, 覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ. けれども, 全部忘れてしまっても, その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ. これだ. これが貴いのだ. 」とある.

安心して精読, 乱読, 何でもよいから本を手元に!



藤原正彦『祖国とは母語』\*914.6:Fuj

鷺田清一・内田樹『大人のいない国』

齊藤兆史『教養の力 東大駒場で学ぶこと』 \*081:SE:0685B

太宰治「正義と微笑」『太宰治選集1』所収 \*913.6:Daz:01

\*いずれも中央図書館所蔵

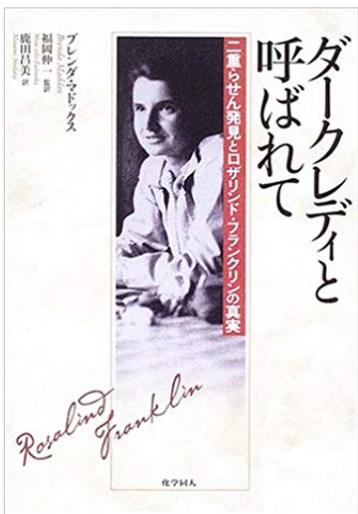
## 『ダークレディと呼ばれて』



澁谷 泉 (しぶや いづみ)  
農学部・共同獣医学科

鳥取大の学生諸君のために「私の選んだこの一冊」というタイトルで本を一冊紹介して欲しいと依頼され、大学のオフィスと自宅の書斎の書棚をじっくり数日かけて見渡しました。専門書が1番多いのは職業柄当然ですが、それ以外に一般向けの科学関連書もあり、夏目漱石や手塚治虫のコミックスまで、多くの書籍を再び手に取り自分の人生を振り返る機会となりました。その中で、一冊だけを紹介しなくてはならないことの難しさに数日悩みつつも、選んだ一冊は、タイトルにある『ダークレディと呼ばれて』です。シュレディンガーの『生命とは何か』とどちらにしようか、最後まで迷って決めました。

皆さんは生物と無生物の違いをご存知でしょうか？ 医学・生命科学系の学生諸君はおそらく知っていることと想像しますが、工学系や文化系の学生にとってはやや難しい質問かもしれません。実は、「生命とは何か」に対する明確な答えは21世紀の今日でもそう簡単ではなくて、まして20世紀中頃まではその頃活躍していたシュレディンガーなどの理論物理学者を納得させ



『ダークレディと呼ばれて』  
ブレンダ・マドックス著  
福岡伸一監訳 鹿田昌美訳  
化学同人 2005

中央図書館開架 289.3:Dak

ることのできる回答は無かったと言って良いと思います。では、20世紀中頃に何が起きたのでしょうか？

その答えは、おそらく皆さん全員が知っているDNAの2重らせん構造が解明されたことで、遺伝子の複製メカニズムまで明らかになったということです。その発見に関わった功績により、ワトソンとクリック(とウィルキンス)が後にノーベル生理学・医学賞を受賞します。

その発見は生命科学の画期的な進歩をもたらしたわけですが、実はワトソンとクリックは自身でDNAの構造解析の実験をしてはいないのです。名誉あるノーベル賞受賞を果たしたこの3名の男性研究者の陰に隠れて、ロザリンド・フランクリンというユダヤ系英国人の女性研究者がいたことを『ダークレディと呼ばれて』では詳細に紹介しています。第二次世界大戦の影響がまだ残るその時代では、科学者の社会の女性に対する偏見は想像を超えたものだったと思われるし、ユダヤ系であったことも難しい状況で

あったはずですが。にもかかわらず、フランクリンが苦心して実験を重ねて得たX線回析のデータの精度は群を抜いて正確であり、ワトソンとクリックが2重らせん構想に行き着くためにはおそらくは不可欠であったことが『ダークレディと呼ばれて』に記述されています。ワトソンとクリックがノーベル賞を受賞した1962年にはすでにフランクリンは若くして癌で亡くなっていました。彼女がもし存命であったなら、ノーベル賞は誰に授与されたのか、あるいは授与されるべきであったのか、この本を読んで考えさせられます。

DNAの2重らせん構造の発見にまつわる書籍は、ワトソン自身が書いた『二重らせん』(講談社文庫)など数多くあり、その多くは陽の当たる側から書かれています。私は『ダークレディと呼ばれて』を推薦します。ダークレディとは？の疑問もこの書を読めばわかります。



## 『平家物語』



久保 堅一（くぼ けんいち）  
地域学部

こんにちは。地域学部教員の久保と申します。専攻は平安文学で、『竹取物語』や『源氏物語』などを中心に研究をしています。

文学の研究者なのでやはり読書は好きですが、子どもの頃の私は決して文学少年ではありませんでした。本よりも、テレビやマンガ、ファミコンのほうが

よっぽど好きな子どもでした。ただ、よく小学校の図書室に行って、本を眺めたり借りたりしてはいました。なぜかというと、本に親しむ自分を格好いいと思っていたからです。つまり、本よりも、〈本を読んでいる自分〉が好きなのでした。なので、借りた本を読み終えることなく返却するということが、しばしばありました。

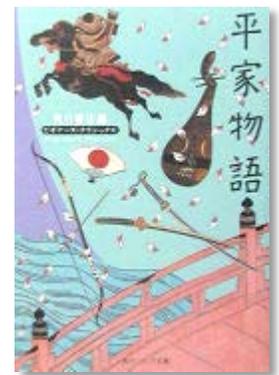


そんな私は、高校に入って、そこで出会った同級生たちが旺盛な読書欲、豊富な読書歴を持っていることに驚きました。彼らに追いつきたくて、自分もたくさん本を読まねばと焦りました。しかし、いざ読もうとしても、「〈本を読んでいる自分〉が好き」という自意識が邪魔をして、ちっとも作品世界に集中できません。「今、俺は本を読んでるぞ」、「こんな本を読んでるぞ」、「通学電車の中で足を組んで読書する俺、格好よくないか」などといった邪念が湧いてきて、内容に入り込めないのです。友人たちのように、「夢中で読んだ!」といえるような経験は滅多に訪れませんでした。

そのような愚かな私を救ってくれたのが、(日本の)古典文学でした。なぜなら、古典は古語で書かれているため、文章を理解するだけで精一杯で、のめり込むことを期待できる対象ではそもそもなかったからです。妙な言い回しになりますが、容易に没入できない対象だからこそ、無我夢中の読書ができない私は慰められたのです。作品世界に入り込めなくても、その文章が理解できただけで快感を得られる読書があることを知りました。「内容に夢中になれなければ駄目だ」という呪縛から解放してくれたともいえるかもしれません。

高校時代の私のお気に入り『平家物語』でした。『源氏物語』のような難しい文章ではなく、考えたり調べたりしたら何とか理解できる、というレベルがとてもありがたかったし、事件や人物の来歴を読者に教えてやろうとするお節介な語りもこちらの知識欲を刺激してくれました。

読書とは、極めて複雑な行為だと思います。学生の皆さんには、「読めば分かって、おもしろい」とは異なる世界に挑戦することをお勧めします。もちろん私もがんばります。



『平家物語』  
角川ソフィア文庫98  
ビギナーズ・クラシックス  
角川書店 2001

中央図書館開架 913.434:Hei

# 20回目の図書館セミナーを開催して



中根 裕信 (なかね ひろのぶ)  
医学部 解剖学講座



医学図書館では、医学部の新入生達に専門科目の学習の前に、人体に興味を持ってもらおうと人体・臓器模型と共に「人体」コーナーを設置し、その資料等の説明も行いながら、「図書館セミナー」を開催してきました。このセミナーは、学生が人体への理解を深め、幅広い教養と人間性を身に着けることを目的として、

平成21年度から毎年開催し、今年で20回目となりました。本セミナーでは、授業でとりあげられない医学の文化・社会的な側面から、人文系の図書館資料などを参考に、医学と芸術や歴史との関わりを示す興味深いエピソードを取り上げてきました。

これまでのセミナーの感想で、「自分の知らないことがたくさんあることを痛感し、人体について興味を持つことができた」という回答もあり、我々の取り組みが、学生の知的好奇心を刺激していることが確認できました。昨年は、「外科のルーツを探る」「麻酔」「解剖図-芸術家との関係」をテーマに各回とも多数の学生が参加し、「解剖図を見るときや解剖を行う際に興味を持って取り組みそう」「表現力をつけることが大切というのはレポートの表現や講義の理解イメージにつながると思う」等の感想をいただきました。

20回のセミナーのテーマを見てみると、美術解剖学(ダ・ヴィンチやミケランジェロ)、ロボット手術、iPS細胞、外科のルーツ、麻酔なども説明して、その時々々の流行と不変の医学の歴史に関するものですが、個々の歴史や文化的背景から紐解いたセミナーを行ってきました。参加者の感想を読み、あらためて、本セミナーを通じた学生の学びや気づきがあることがわかりました。これからも、本セミナーを継続していきたいと思います。皆様のご支援とご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

近年の医学図書館セミナー開催テーマ	
第20回	かんさつ「レーウエンフックの虫眼鏡—そのスケッチ」 「『臓器の観察』と解剖図—芸術家との関係」
第19回	しる:探る 気づく 理解する「解剖図—芸術家との関係」
第18回	しる:探る 気づく 理解する「麻酔」
第17回	しる:探る 気づく 理解する「外科のルーツを探る」
第16回	みる:診る「マルファン症候群、ニコロ・パガニーニ」
第15回	知りたい—自分の体を使ってでも、自分の身体を知ろうとした

中根裕信、森田正、橋井嘉枝子:医学教育の起点としての図書館. 大学教育研究年報 18:45-50, 2013

中根裕信:DNA修復異常症の研究と難病の情報発信-色素性乾皮症、コケイン症候群-  
鳥取県医師会報(2018年10月号) No.760:61-66,2018 [医学図書館からの情報発信の部分]  
(<http://www.tottori.med.or.jp/docs/kaihou/2018/760.pdf>) (2018年11月19日確認)



# 第8回大学図書館学生協働

「学生協働」と呼ばれる、教職員と学生が協力して大学の鳥取大学附属図書館においては、より学生にとって使いやすく、ニーズに即した図書館となるため、平成24年から職員および有志の学生により「学生図書館ワーキンググループ(平成28年までは『学生選書ワーキンググループ』)」を組織し、蔵書構成の検討、館内環境・サービス改善、読書・図書館利用啓発など、様々な活動を実施してまいりました。このたび、平成30年9月6・7日に広島大学を会場として開催された「第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム」へ、図書館職員と共に学生図書館ワーキンググループの学生2名が参加しました。その参加学生によるレポートです。

私は9月6日(木)、7日(金)に広島大学で行われた大学図書館協働交流シンポジウムのうち、6日のみ参加しました。6日の流れは開会、基調講演、事例発表、ポスターセッション、交流会でした。

基調講演では広島文教女子大学の准教授が、同大学で昨年度から実施している「図書館ガイドダンス」についてお話されました。

事例発表やポスターセッションで他大学がどのような活動を行っているのか知ることができました。私たちとの共通点は展示やクイズラリー、本の福袋です。ビブリオバトルを月一で開催する大学、他大学と交流する機会を設け、学生教員・職員・聴講生の交流を図るブックパーティを開催する大学もありました。特に興味を持てたのは、様々な学部の教員のお薦め本の紹介です。その教員の専門分野だけでなく、趣味として楽しまれている本を知るのには面白いと思いました。公式キャラクターをラインのスタンプにしたり、クリアファイルを学生に配布しているところもありました。どの大学もより多くの学生に本とかかわってもらおうと工夫を凝らしているのが伝わってきて、今後の参考になりそうなものばかりでした。課題として、活動をより多くの人に知ってもらうこと、そのための広報活動について挙げる大学が多くありました。

ポスターセッションの際、私たちのクイズラリーのポスターや問題について、「面白い」「よくできている」というコメントをもらえたことが励みになりました。今後もよりよいものにしていこうと思いました。



西村 千尋 (にしむら ちひろ)  
農学部生命環境農学科1年



# 交流シンポジウム参加報告

平成30年9月6-7日 広島大学にて



シンポジウムは2日間にわたって行われました。1日目に基調講演と事例発表、ポスターセッションがあり、2日目にワークショップや図書館見学がありました。どれも貴重な経験となりましたが、ポスターセッションとワークショップに焦点を当てて感想を述べたいと思います。

まず、ポスターセッションについてです。これに関して一番楽しかったことが、他大学の取り組みについて知れたことです。ポスターを見ていくだけでも様々な取り組みを知ることが出来ました。その中でも興味を持ったところで質問をしたり、意見を述べあったりできます。また、自分たちの取り組みについても他大学へ発信することができ、興味を持ってもらえると充実感も味わえました。ちなみに、1日目の内容が終わった後、交流会に参加しました。より近い状態でお話をする時間はとても楽しいものでした。

次にワークショップについてです。これは同じ悩みを持っている他大学の方々数名とグループを作り、解決策を考えていくというものです。同じ悩みを持っているため話も合いやすく、場合によってはお互いの取り組みについて教え合うことができました。実際、私も図書館への入館者数が少ないことに関して、他の大学の方の意見を知ることがとても面白かったです。

私はこれまで他大学との交流に積極的に参加をしてきていませんが、それでも楽しい2日間を過ごすことができました。来年も行って図書館を盛り上げていきたいです。



高橋 萌 (たかはし もえ)

農学部生命環境農学科2年



# 中央図書館ラーニング commons の改修

## 1. 改修の経緯

中央図書館は平成21年度に耐震改修工事を行い、平成22年4月に現在の状態で開館しました。その際館内でディスカッション等しながら勉強できるスペースを設置しようということで、ラーニング commons (以下 LC) というスペースを作りました。

こちらは工事終了直後から非常に利用が多い場所となり、入室者数の統計を取ったところ、おおむね全入館者の約半分が LC に入室していましたので、試験期間でなくても座る席がないことも多くありました。机・椅子を可動式のものにしたり、少しでも座席をふやしたりしましたが、混雑を解消するまではいきませんでした。また LC 利用者に対してアンケートをとったところ席を増やしてほしいという意見が多かったこともあり、本格的に改修をすることにしました。改修とはいっても壁や柱に手を入れるようなことはできないため、什器や移動可能な設備など変えられる範囲内でレイアウトを考えることにしました。

Before



After



## 3. おわりに

限られたスペースや設備の中ではありますが、より利用しやすい学習環境をご提供できるように今後も改善に努めていきます。

※平成30年度学長裁量経費により、この改修を実施しました。

## 2. 改修の内容

利用者への影響が最小になるように、もともと予定されていた蔵書点検による休館(2018年8月22～28日)に合わせて改修を行いました。

元々 LC 内には演習用端末 40 台がありましたが、大きな机に固定されておりこれが非常に多くのスペースをとっていました。また端末の利用状況を調査したところ使われていない時間も多々あることなどがわかりました。よってこれらを使用に影響がない範囲で移動することで、利用できるスペースや座席を作り出すことにし、検討を重ねました。

まず端末 40 台のうち 16 台をこれまで施錠し予約制で使用していた(旧)グループ学習室 3 へ移動して、利用形態も常時利用できるスペースに変更しました。さらに 12 台は LC 内の窓側へ移動しました。これにより部屋の中央付近に余裕ができましたので、可動式の新しい机 4 台をいれました。これによって無駄に空いている席が減り、人数や用途にあわせて自由にかつ常時利用できる座席が増えることになりました。



金子 尚登 (かねこ なおと)  
図書館情報課資料サービス係

# 鳥取大学古本募金を始めました

## 1. 鳥取大学古本募金とは

鳥取大学古本募金は、みなさまの読み終えた本やDVD等をご提供いただき、その査定換金額が鳥取大学に寄付される取り組みです。寄付金は、学生の学修活動に必要な図書館の図書の購入費に活用させていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。



<https://www2.kishapon.com/tottori-u/>  
(古本募金運営会社である嵯峨野株式会社のサイト)



## 2. 募金の方法

### ① 古本募金回収ボックスへの投函

鳥取大学附属図書館中央図書館、広報センター(鳥取キャンパス)、医学図書館(米子キャンパス)に設置している古本募金回収ボックスへ、ご不要となった本などを投函してください。

### ② 宅配業者によるご自宅までの引き取り

5冊以上ご提供いただける場合は、宅配業者が、ご指定の日時に、本などをご自宅まで引き取りに伺います。何箱でも送料は無料です。Webの申込みフォームおよびお電話でのお申込みができます。

### 募金できるもの

- ・ ISBNコードのある本  
(ISBNコード: 本の裏表紙・奥付等に表示されている10ケタまたは13ケタの数字)
- ・ DVD・CD
- ・ ゲーム
- ・ スマートフォン
- ・ 未使用の切手・はがき
- ・ 商品券

### 募金できないもの

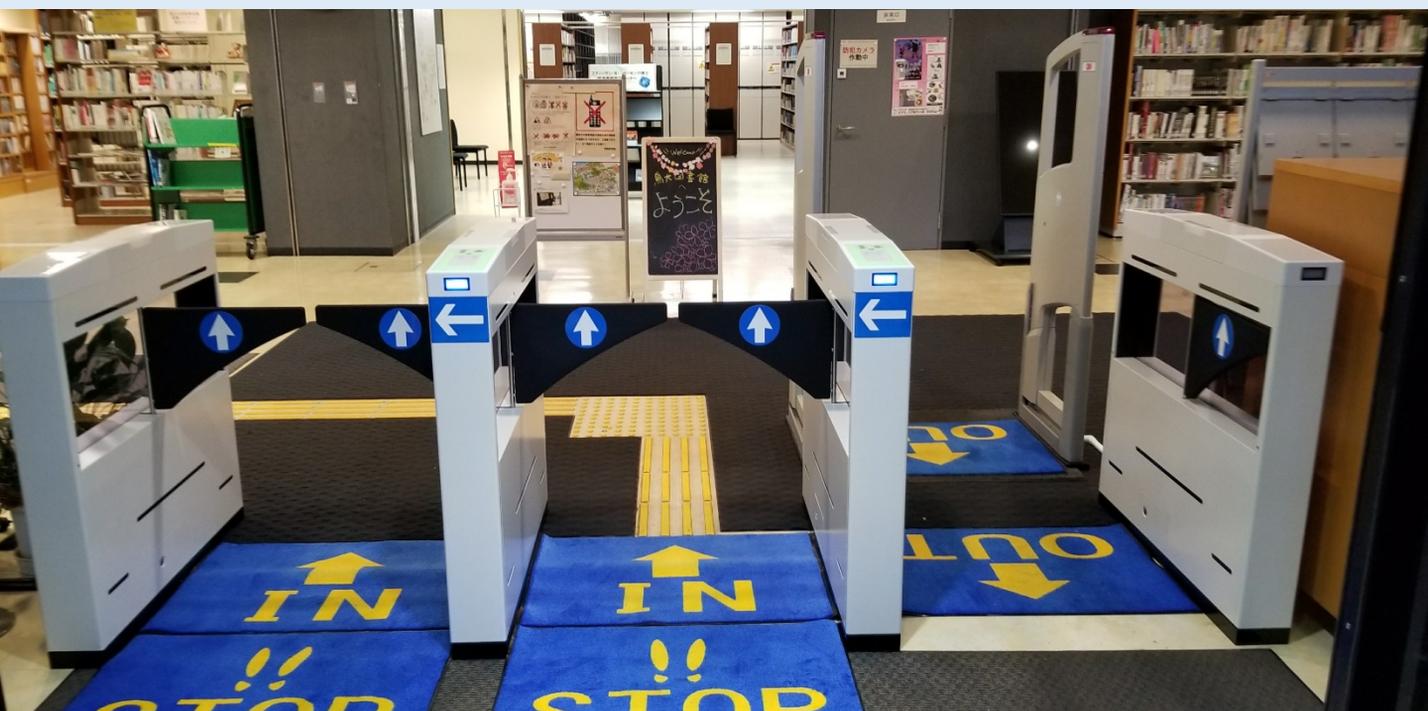
- ・ ISBNコードのない本
- ・ 汚損・破損している本
- ・ タバコ・カビ等のおいがかついている本
- ・ 付属品が欠品している本
- ・ 週刊誌

# トピックス

## 入退館ゲートを設置しました

平成30年4月より、中央図書館と医学図書館で、入退館ゲートの正式運用を開始しました。学生、教職員のみなさまの利用環境の安全性を高めるとともに、ゲートで取得できる入館情報を、図書館のサービス向上に活用することを目的としています。利用者カードをかざすのはお手数ですが、ご協力をお願い致します。

【重要！】学生証、職員証をお忘れの場合も、図書館をご利用いただけます。ゲートの横のチャイムでお知らせください。



### 地域のみなさま、本学附属学校の児童・生徒のご利用について

利用登録をして頂くことで、地域のみなさまにも資料の閲覧や貸出など、当館をご利用いただけます。

また、附属学校生、高校生のご希望の方へ、入館して資料の閲覧ができる「入館カード」を発行しています。



## 鳥取大学研究成果リポジトリをリニューアルしました

鳥取大学の教育・研究成果物を公開する「鳥取大学研究成果リポジトリ」をリニューアルしました。画面デザインを一新し、下記の機能を追加しました。研究成果の公開にご活用ください。

- ・ スマートフォンやタブレット端末での表示に対応
- ・ ジャーナルページ作成・公開機能
- ・ コンテンツへのカバーページ付与
- ・ DOIの自動採番機能
- ・ 鳥取大学研究者総覧とのリンク機能



## 全国大学ビブリオバトル 鳥取地区決戦を開催しました

11月10日(土)に鳥取大学附属図書館にて、全国大学ビブリオバトル2018の鳥取地区決戦を開催しました。

公立鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取大学で行われた予選会でチャンプ本に選ばれた代表者が、ビブリオバトルを行いました。

発表者が5分間で本を紹介し、観戦者の投票で一番読みたくなった本をチャンプ本として選ぶこの大会。チャンプ本に選ばれたのは、公立鳥取環境大学の井上さんが紹介した『すべて忘れて生きていく』(北大路公子著 PHP文芸文庫)でした。井上さんは、鳥取地区代表として、12月23日に開催された全国大会である大阪決戦へ出場し、健闘しました。

### 【この他に紹介された本】

・N・グレゴリー・マンキュー著 足立 英之ほか訳  
『マンキュー経済学1 ミクロ編』 \*331:Man:(1)

・安生正著 『ゼロの激震』 \*913.6:Anj

\*いずれも中央図書館所蔵

## オンラインによる 鳥取県立図書館資料の取寄せ申込み ができるようになりました

鳥取県立図書館の資料取寄せを、鳥取県立図書館のウェブサイトから申し込めるようになりました。鳥取大学利用者番号(学生番号、職員番号)を使うため、鳥取県立図書館利用証がなくても可能ですが、事前に利用者登録が必要です。なお、これまで同様、当館カウンターへ申込むこともできます。

[詳細はこちらをご覧ください]

<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/news/2019/20190108.html>





編集・発行

鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地

 <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/index.html>

 <https://www.facebook.com/TottoriUnivLib/>

 [https://twitter.com/TottoriU\\_Lib](https://twitter.com/TottoriU_Lib)